

農業研修自転車旅行を終えて

農業研修を目的として夏期農閑期を利用して約二ヶ月間県外いたる所を自転車での旅を続けて来ました。しかしながら農業研修を目的として出発したものの、結果的には、社会見学といった方が適切かも知れません。私達一個人の計画に対して皆様方の御協力下さいましたことに對しましては深く感謝申し上げます。と共に皆様方の御期待に添うことの出来なかったことが残念です。なお皆様方の心からの御厚意によりまして無事故でしかも予定通り実施出来ました事に對して御礼申し上げます。

農業に未熟な私が他県の経験とを喜んでいます。二ヶ月間の自転車での旅は苦勞の連続でしたが終えた今日でたゞ苦しかったことも染しみと化して良き思い出となり良き学びとなりました。鹿児島から熊本、佐賀、福岡、山口、広島、岡山、香川、大阪、京都、滋賀、三重、和歌山、愛知、静岡、神奈川、東京、山梨、長野、岐阜、徳島、愛媛、大分、宮崎の各県の一部分ではありましたが見聞しながら走ったわけでありました。他県の農業を見るときにやはり農業そのものには何等変りはないように思いました。ただその土地の人々の考え方や努力によって現在の生活を持ち終始経営面に努力しているようです。鹿児島県特に大隅地方の土地利用の良きことそして実にのんびりした生活で尚収入面の良き事は他に少ないのではないかと思います。先進地なみの考え方で行に移ったならば大隅程に発展性のある所も他に無いような感じを受けます。台風銀座をいわれる本県は台風を考慮した経営そして他にまねの出来ない様な方法を見出しそれにより産地化する事が最もとも心要ではないかと思ひます。

二ヶ月間終始心配致しましたことは宿泊事故の事でしたが宿泊は農家試験場一部



十月二十七日より十一月九日まで、十四日間読書週として開かれ、市民館では、新刊書、県図書等四千冊の図書が整備され貸出文庫や個人貸出しで御利用いただいています。いまでも利用していただいている方も、この秋にみんな本を読むみましょう。

単純になりがちなわたしたちの生活にうるおいをもたせるために読書の毎月を送りたいものです。

「親も子も共にのびも二十分間読書」

鶴園優

に旅を続けました。幸いにも病氣その親事故もなくまた皆様方の親切で思つた以外に予定通りのコースをスムーズに旅行出来た事は喜ばしい事です。

人はいつも自分以外を広く見聞し少しでも視野を広く持つ事が必要ではないかと思ひますが、今後の世代になる青年は特に他を広く見聞し学ぶ事が大切ではないかと強く感じた次第です

静岡で二人は分れ、私は富士から山梨に向つて青柳から約二時間走ると甲府で、甲州ぶどうの本場だけに九月六日現地に行った時はすでに収穫の最中で沢山食べる事ができた。

この地方の農家は主に果樹養蚕酪農等が主体と成っており農家の生活水準も高く殆んどテレビが普及して居ります。そして山梨長野方

土から山梨に向つて青柳から約二時間走ると甲府で、甲州ぶどうの本場だけに九月六日現地に行った時はすでに収穫の最中で沢山食べる事ができた。

この地方の農家は主に果樹養蚕酪農等が主体と成っており農家の生活水準も高く殆んどテレビが普及して居ります。そして山梨長野方

曾の深山に向かつて中津川を突つ走り日本ラインにそ

うて岐阜を視察、大阪で合流して和歌山から淡路島四国へ渡り、一周して松山から別府へ渡り日向路を通つて無事達成して二月六日より鹿児島入りましたが、宿泊は主に農業試験場と一般農家交渉して研修の旅を続けましたが、熱中すれば何事も果すことが出来るであらう。それで私達青年が共に学び共に仿いて、明る

各種運動會

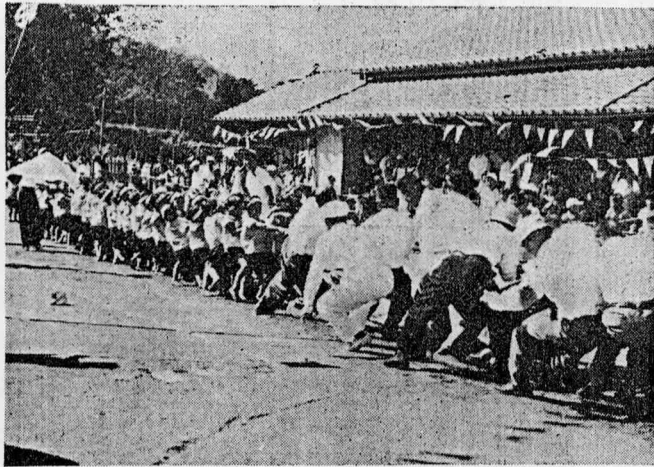
去る九月二十五日の田代

タマ入れ【左下】

[illegible]

だ
よ
り

運動会は体育を中心とし、学習発表の場であり、社会の明日へのエネルギーを培うレクリエーションであることは論をまたない。



田代高村たより

△ 種鶏肝属畜産共進会に
 おいで第一位!!
 去る十月六日より七日迄
 の二日間に第五回肝属畜産
 共進会が鹿屋市で行われた
 が、種鶏の部門で第一位を
 獲得、知事賞、県畜産会長
 賞、郡畜産会長賞を授与さ
 れた。

△ 技迫君県陸上新人大
 会で大いに活躍す!!
 さる十月九日、鹿児島県
 待されている。

高校陸上新人大会が鴨池競
 技場で盛大に挙行された。
 本校農業科一年の技迫勝俊
 君は、千五百米と五千米に
 出場した。その結果、五千
 米の部において十七分十二
 秒一の一好記録で堂々と二
 位に入賞し、千五百米では
 六分一に入賞した。才能に
 恵まれている上に一人倍努
 力する選手故、今後の活躍
 が期待されている。

戸籍に関する情報は
ホームページ上では
掲載していません

△三輪車購入さる
かねてから全校あげて熱望していたリングハンドル三輪車購入が十月十八日遂に実現し、マツダ三輪が到着した。

地域の方々の御批判を乞いたい。
一、今までとちがって出場する種目、回数が多く良か
つた。中学生のエネルギーを集中する面から見逃せない点であると思う。
二、応援団の統制がとれて良かった。これは、赤白各組の責任者をはっきり決め責任者ならびに応援リーダーがよく努力したことである。
尚、学校としては詳細に亘って徹底的に反省したが、紙面の都合で省略する。
中学校単独の運動会が有意義に盛大にできたことは、地域社会の物心両面の御援助によるもので深く感謝する。尚午前中のマラソンの際、予想外に参加者が多かったのであるが、選手の前になり、またあとになりして終始伴走された辺志切の近川正人君（田代高校四年）のような陸の美談があったことをここに披露する。
最後に運動会が平常の体育学習発表の場であると思えば、走跳投の運動能力の向上を忘れてはならないと思う。生徒の反省の一つに「PTA会費をたくさんもらって運動場を買って下さい」と偽らぬ生徒の願いではなからうか。

戸籍に関する情報は
ホームページ上では
掲載していません